



JIN-AI

初夏号

平成27年7月発行

じんあい

編集発行 社会福祉法人 仁愛会 広報推進プロジェクト 発行責任者 織内かほる

高砂荘 木もれ陽
 ヴィラ白鳥
 白鳥の里デイサービスセンター
 くらしの郷
 仁愛グループホーム
 仁愛ケアプランサポートセンター
 ホームページ
<http://jin-ai-kai.jp>

〒972-0161 いわき市遠野町上遠野字沢繁16番地の17

E-mail : info@jin-ai-kai.jp

●特別養護老人ホーム 高砂荘・ショートステイ TEL▶(0246)89-3288

●高砂荘デイサービスセンター TEL▶(0246)89-2860

●小規模多機能型居宅介護 木もれ陽 TEL▶(0246)74-1611

●木もれ陽デイサービス TEL▶(0246)74-1611

〒970-8043 いわき市中央台鹿島3丁目1-7

E-mail : kurashino@jin-ai-kai.jp

●くらしの郷ミドル&ショートステイ TEL▶(0246)29-0191

E-mail : kurashino-ds@jin-ai-kai.jp

●くらしの郷デイサービスセンター TEL▶(0246)29-0193

〒972-8325 いわき市常磐白鳥町東丁田23番地の1

E-mail : v-shiratori@jin-ai-kai.jp

●ミドル&ショートステイ ヴィラ白鳥 TEL▶(0246)84-7161

〒972-8325 いわき市常磐白鳥町東丁田23番地の4

E-mail : shiratori@jin-ai-kai.jp

●白鳥の里デイサービスセンター TEL▶(0246)72-1011

E-mail : csc@jin-ai-kai.jp

●仁愛ケアプランサポートセンター TEL▶(0246)88-8920

〒970-8002 いわき市平中平窪字扇田28

E-mail : j-gh@jin-ai-kai.jp

●仁愛グループホーム TEL▶(0246)25-0033

社会福祉法人仁愛会 30周年を前にして



社会福祉法人仁愛会
本部長
織内 かほる

3・11の未曾有の災害から4年以上の年月が経ってしまいました。我々はこの間、若い働き手の避難による労働不足を、残された職員と心をつなぐ今日まで何とか頑張ってきました。残された職員の心の復興を図りながら、新しい人的資源の確保の道のりが、この4年余りの歩みと言っても過言ではなかったかと考えています。

そして、ふと我に振り返り足元を見つめてみようと、培ってきた仕事の中身も手を入れなければならぬ現実と直面し、昨年9月から改善のプロジェクトを立ち上げました。無理・ムラ・無駄をなくし、ひとつ一つの行動・作業に疑問を持ってみる。地道な作業の積み重ねで、副本部長会議を核とし職員全員一丸となつて改善を押し進めております。

限られた労働力。限られた環境の中で最適の業務プランを模索し、エビデンスの持てる行動・作業環境を一致団結のもと創り上げてゆき、最終・最大の目的である「利用者様満足」「生きがい」に繋げて行くことが我々に課せられた使命であると考えております。介護報酬の減額等の逆風も強くなりますが、経営努力も怠りなく、介護職員処遇改善加算の活用等により地域一番の職員待遇も実現して参ります。

利用者様には「ここにきてよかったです。」職員には「ここで働いてよかったです。」という満足が達成できるように、知恵を絞って効率運営に努力してゆくことを課題として、今後共気を緩めることなく邁進してゆくことを、30周年を前に心に誓ったことでした。

平成27年7月

集団から組織への変革

社会福祉法人仁愛会 副本部長
上遠野 理恵



当法人では、昨年9月より、全事業所を挙げて大幅な業務内容の見直しと日課の再編に取り組んでいます。介護保険制度導入以降、都度の改正等を機に、それに対応すべく改善を重ねてきましたが、結果として業務は複雑化され、職員に係る負担も大きくなっていることに気づきました。本来は、利用者様の援助日課であるべきが、職員のための業務日課の要素が大きくなってきていたのです。

我々の職場は利用される方の生活の場としても共有されます。ご利用者への質の高いケアの実践は職員の就業環境が整ってこそ適うものであり、ニーズが多様化しているとはいえ、自分らしい生活を続けていきたいというご利用者側の想いとそれを実現できるように支えていくという支援者側のスタンスはいつも変わらないものであるという基本に立ち返り、事業の在り方を見直すことをこの改善プロジェクトのコンセプトにしました。

今回の取り組み開始にあたっては、まず現場で起きている働きにくさや小さな事故を出発点とし、リスク、効率、コストの3つの視点から進めてきました。目指すところは、ご利用者は安心して気持ちよくサービスを受けることができ、職員は不要な負担や不安を持たず業務に専念できること、つまりは利用者及び職員処遇の改善です。

ある程度形になっていったものに修正をかけていくというところはゼロから作る以上に困難があり、事業所間、部門部署間を切り分けることも不可能で、介護、看護、給食、清掃・洗濯、運転に至るまであらゆる部署を含め利用者処遇を軸とした各々の役割分担の見直しをしてきました。事業拠点や事業所の数が増えたこともあり、運営に係る細かな点でもバラツキが生じていたことから会議の持ち方や使用帳票、備品の統一までルーラル化を図っています。

部分的試行を繰り返し、この取り組みも大詰めに入っていますが、この先も常に小さな課題を軽視せず一つ一つ丁寧に確認し解決を積み重ね「安定的且つ継続的なサービス提供」が可能な企業創りを目指します。